

期日 平成二十六年十一月八日（土）・九日（日）

会場 大阪芸術大学 スカイキャンパス（あべのハルカス24階）

セミナールーム（2）

日本道教学会 第六十五回大会要項

日本道教学会

切り取ってお使いください

出張依頼状

本学会第六十五回大会を来る十一月八日（土）に大阪芸術大学 スカイキャンパス（あべのハルカス24階）にて開催いたしますので、貴学

氏を

御差遣いただきたく、ご依頼申し上げます。

平成二十六年九月二十日

日本道教学会会長

大形 徹

第六十五回大会準備委員長

奈良 行博

殿

日本道教学会第六十五回大会ご案内

拝啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、日本道教学会第六十五回大会を、来る十一月八日（土）に研究発表会、九日（日）には京都大学人文科学研究所の術数学研究会との共同開催として公開座談会を、大阪芸術大学 スカイキャンパスにて開催いたします。万障お繰り合わせのうえ、ふるってご参加くださいますようご案内申し上げます。

なお、会場の規則により現金の扱いができません。参加費等は前払い制と致しました。ご参会の方は、同封の振込用紙をご使用になり、必要な事項に○印をつけ、合計振込金額をご記入のうえ、十月二十日（月）までにお振込みください。振替受領証をもって受付事務を行いますので、大会ご参加の折にはお忘れなくご持参いただきますよう、お願い申し上げます。

敬具

平成二十六年九月二十日

日本道教学会 会長 大形 徹
第六十五回大会準備会代表 奈良行博

会員各位

《日本道教学会第六十五回大会準備委員会》

〒546-0023 大阪市東住吉区矢田2-14-19
大阪芸術大学短期大学部 奈良行博研究室気付
電話 080-5703-8672（奈良携帯）

日 程 表

| | 時間 | | 会場その他 |
|-----------|-------|-----------------|---|
| 7日 (金) | 16:00 | 全国理事会・合同役員会 | 大阪芸術大学スカイキャンパス (あべのハルカス24F) セミナールーム(2) |
| 8日 (土) | 10:10 | 受付 | |
| | 10:30 | 開会式 | |
| | 10:40 | 研究発表 (午前の部) | |
| | 12:40 | 昼食 ※ | |
| | 13:30 | 報告事項 | |
| | 13:40 | 研究発表 (午後の部) | |
| | 14:10 | 特別講演 | |
| | 17:00 | 総会 | |
| | 17:30 | 懇親会 | あべのハルカス13F「京都・北山ダイニング」 |
| 9日 (日) | 11:30 | 出版社・書店によるカタログ販売 | 大阪芸術大学スカイキャンパス (あべのハルカス24F) セミナールーム (2) |
| | 13:30 | 特別座談会 | |

○会費内容

- ・大会参加費 3000円 (8日、9日の通し料金です。分割できません)
- ・懇親会費 7000円 (大学院生は5000円)
(会場受付では金銭の授受ができませんので、ご参加の方は必ず振込用紙にて10月20日までに御支払い下さいますようお願いいたします)

※昼食

あべのハルカスタワー館12階～14階が「あべのハルカス・ダイニング」と称して食堂街になっておりますので、こちらをご利用ください。御弁当の注文はお受けいたしませんことご了承ください。ご持参のお弁当につきましては、発表会場であるセミナールーム(2)でお食べいただいてもかまいません。

○休憩室

- ・飲料の自動販売機を設置した「レストルーム」、タバコが吸える「喫煙ルーム」がセミナールーム近くの同フロアに設けてありますので、こちらをご利用ください。

◎非会員で一般参加を希望される方は、8日の特別講演、9日の特別座談会の通し料金として参加費1500円を頂戴します。下記口座にお振込みください。なお、お支払手数料はご負担願います。

郵便振替口座 00930-0-165702番

加入者名 日本道教学会 第65回大会準備委員会

ご参加の当日、会場受付で払込金受領証をお渡しいただければ、入場チケットと交換いたします。

第六十五回大会日程・次第 第一日（十一月八日 土曜日）

受付（十時十分）

午前の部（十時半～十二時四十分）

開会式

挨拶 大会準備委員長 奈良 行博

会 長 大形 徹

研究発表

『淮南子』に見える共公について — 不周山説話を中心に —

大阪府立大学大学院 今井 環

司会 広島大学教授 有馬 卓也

森ノ宮医療大学非常勤講師 重信あゆみ

司会 京都大学教授 宇佐美文理

女媧と伏羲 — 二人の神になるまで —

葛洪に擬せられる醫方について

— 『外臺祕要方』 『醫心方』 所引の 『葛氏方』 等から —

京都大学人文科学研究所講師 多田 伊織

司会 北里大学東洋医学総合研究所客員研究員 浦山 きか

『弘明集』『廣弘明集』に見られる道教批判の体系化について

東京大学大学院 李 蘇 書

司会 真言宗豊山総合研究院上席研究員 田中 文雄

休憩（十二時四十分～一時四十分）

連絡事項・紹介

午後の部（一時四十分～四時半）

研究発表

台湾シャーマニズムから見る靈魂世界

西南学院大学非常勤講師 王 貞 月

司会 筑波大学教授 松本浩一

特別講演「現代の道教 道協・道人・道術」

総合司会 筑波大学教授 丸山 宏

当代中国道教の現状

中国道教協会国際部 尹 志 華

（通訳） 関西大学アジア文化研究センター研究員 二ノ宮 聡

上海道教協会の活動

当代上海道教の宮観と道士

総会（四時四十分）

懇親会（五時半）あべのハルカスタワー館13階「京都・北山ダイニング」

上海道教協会会長 吉 宏 忠

（通訳） 関西大学大学院 榎木 亨

上海道教協会副会長 姚 樹 良

（通訳） 関西大学非常勤講師 山田 明広

『淮南子』における共工の形成 — 不周山説話を中心に —

大阪府立大学大学院 今井 環

共工は堯舜など、古代の帝王相手に反乱を起こす存在として、先秦の書物に度々登場する。『孟子』や『荀子』、儒家以外でも『韓非子』『孫臏兵法』などにもその名前は見え、秦以前の段階である程度の形成があったことは疑いない。

『淮南子』は淮南王劉安が稷下の学者を動員して編纂させた書物である。その内容は先秦の諸子百家の思想を多く取り入れており、どの部分が誰の影響を受けているか、といった研究も既に行われている。

『淮南子』が先行する書物の単純な引き写しであるならば、そこに現れる共工像も諸子百家の書物に現れたままの姿を取る筈である。しかし、実際に『淮南子』における共工の記述を見ると、諸子の記述とは以下の点で異なる部分を持つ。

(1) 『淮南子』以前の争う相手が堯・舜・禹のみであるのに対し、『淮南子』ではそれに加えて顓頊・帝嚳と争う。

(2) 共工が不周山に触れて天柱を折る説話は『楚辞』天問に康回の説話として登場するのみで他の先秦の書物には見られない。不周山説話について、康回＝共工とするのは王逸の『楚辞章句』によるものであり、管見の限りこの説への批判はされることは

なく、康回は共工の転声だとされてきた。

しかし、『淮南子』以前の共工に関する記述を見るに、水害を引き起こす神としての性質はあっても地形を破壊する神としての

性質は持ち合わせていないように考えられる。『淮南子』本経訓を見ても、「舜の時、共工は洪水を振滔し、以て空桑に薄る。龍門未だ開かず、呂梁未だ発かず、江淮流れを通じ、四海溟滓たり。民皆丘陵に上り、樹木に赴く。」と水害に終始している。

また、『淮南子』に注釈をつけた高誘も不周山に関連する共工について、「堯の時の共工に非ざるなり。（原道訓、注）」と述べる。五帝の頃から度々現れる共工について、一個人ではなく部族を指すという説もあるが、そもそも堯時の共工と顓頊・帝嚳の時の共工が、全く関わりが無い別系統の説話であった可能性も十分に考えられる。

本報告は『淮南子』以前の共工説話を整理して流れを把握することで、不周山説話が本来共工のものではなく、『淮南子』の編纂者が何らかの意図を持って共工の説話として取り入れたという可能性について検証する。その意図と、それによる『淮南子』以後の共工像への影響を明らかにすることまでを一応の目標とする。

女媧と伏羲 — 二人の神になるまで —

森ノ宮医療大学非常勤講師 重信あゆみ

女媧と伏羲はいつから対になるのか。『春秋運斗數』（『風俗通義』三皇所引）では伏羲、女媧、神農が三皇とされる。女媧と伏羲のみが文献上で対となるのは唐の『独異志』で「女媧兄妹」とされる。聞一多は『伏羲考』で少数民族の苗族の始祖を伏羲・女媧とし、伏羲を「瓢箪」、女媧を「女伏羲」とした。

女媧の文献上の初出は『楚辭』天問で、「登立して帝と為す。孰れか之を道尚す。女媧、體有り。孰れか之を制匠れるや」とみえる。曾布川寛氏は『崑崙山への昇仙』で、この帝を女媧とみなす。『山海經』大荒西経では神々を生み出すもの、『淮南子』覽冥訓では天を補修したとされる。文献上では天帝あるいは神々を生み出すものとされ、その地位は高い。

伏羲は『莊子』大宗師に道を得た真人とされる。しかし『莊子』には女媧はみえず、『楚辭』には伏羲の記載がない。この時期、女媧と伏羲は文献上では無関係である。

図像ではどうか。前漢初期の馬王堆帛画では蛇身人面の女媧は日月を司る天帝にみえ（図1）、画の中央に単独で描かれ左右に日月が配される。前漢末期の河南画像石には羲和と嫦娥がみえる。羲和は帝俊の妻で十日を生み（『山海經』大荒東経）、常羲（嫦娥）もまた帝俊の妻で十二の月を生んだ（同大荒西経）。二人とも女性だが画像石では蛇身人面で上下に位置し、尾を絡ませ日月を掲げる（図2）。これは後の伏羲と女媧の構図と酷似している。前漢末期の河南画像石では蛇身人面の女媧と伏羲は中央の鬚を結った神に抱えられている。ここの女媧と伏羲は仙草を掲げ、日月とは関係がない（図3）。後漢になると蛇身人面の女媧と伏羲

は尾を絡ませ日月を掲げる(図4)。「列子」五帝では「庖犧氏、女媧氏、神農氏、夏后氏、蛇身人面」と蛇身人面とされるが、『山海経』の蛇身人面、人面蛇身、人首蛇身の神に通ずるものがある。唐代にはこの姿が典型的となる(図5)。女媧と同様に蛇身人面のか。①蛇身人面の女媧と日月(馬王堆) ↓ ②日月を掲げる蛇身人面の羲和・嫦娥の図像が、伏羲・女媧の図像に変化していくので伏羲・女媧(後漢画像石・唐代の画) という変化である。なお満ち欠けをする月。日没、日の出を繰り返す日(太陽)。脱皮をして再生する蛇は、いずれも被葬者の復活再生を願うために描かれたのだろう。



図 1



図 3



図 4



図 2



図 5

葛洪に擬せられる醫方について — 『外臺祕要方』 『醫心方』 所引の 『葛氏方』 等より —

京都大學人文科學研究所講師 多田 伊織

唐・王焘の『外臺祕要方』四十卷（天寶一一 七五二成立）は、日本・丹波康賴が『醫心方』三十卷（永觀二 九八四進上）編纂の際に、大いに参考としたと考えられている一大醫學叢書である。『外臺祕要方』の大部分は、過去の醫書からの引用であり、文獻名と引用部分の卷次を明示するのがその編纂の特徴の一つである。今本『外臺祕要方』は、北宋の校正醫書局による宋改を経ており、唐代そのままの姿ではない。それでも、『外臺祕要方』は古逸醫書の輯佚には缺かすことが出来ない底本である。

『醫心方』は、多數の中國醫書を引用する。丹波康賴が参照した醫書は、遣唐使等によって將來されたものか、それらを日本で書承した寫本で、いずれも宋改以前の姿を伝えるものと考えられる。『醫心方』もやはり古逸醫書の輯佚には缺かせない底本である。

ところで、『外臺祕要方』と『醫心方』は、晉の葛洪に擬せられる醫方を多く引用する。『外臺祕要方』では、『肘後方』の引用数が群を抜く。葛洪は『抱朴子』内篇雜應篇で、自ら編纂した醫書『玉函方』百卷を更に『救卒方』三卷に要約したとする。この『救卒方』は『肘後方』、『肘後備急方』等とも稱されるのであるが、梁の陶弘景が『肘後方』を全一〇一條（『補闕肘後百一方』）に増補したため、それ以降の醫書が引用する『肘後方』は、葛洪の原撰部分か陶弘景の増補部分か見分けが付きにくい。『補闕肘後百一方』は、寫本の時代には、葛洪の原撰部分と陶弘景の増補部分は朱墨で色分けして書承されていたが、北宋以降、版本の時代になると、その區別が失われる。今本『肘後備急方』は、金の楊用道の再増補を受けた『附廣肘後方』で、葛洪原撰部分は見分

けが付かなくなっている。

『外臺祕要方』にはその他に『葛氏方』等の名も見える。『醫心方』では『肘後方』の名は見えないが、『葛氏方』の引用が極めて多い。藤原佐世『日本國見在書目録』には、「葛氏肘後方十（巻）、葛氏肘後方三（巻）陶弘景撰、葛氏百方九（巻）、葛氏方九（巻）」の四種が著録されている。

管見では、『外臺祕要方』では、『肘後方』が五八六回、『葛氏方』は二九回、引用または關説される。『醫心方』では、『葛氏方』が四六四回引用されている。

本發表では、『外臺祕要方』『醫心方』所引の葛洪に擬せられる醫方を中心に分析する。まず『葛氏方』『肘後方』『玉函方』等葛洪原撰の可能性のある醫方を抜き出し、今本『肘後備急方』と比較、今本には見えない條を拾い上げる。さらに、名前が似通っている『備急方』等の引用も同様に處理する。併せて、唐代までに成立した他の醫書にも範圍を廣げ、類方を集めて比較、書承關係を検討する。これらの操作によって、葛洪に擬せられ、後代の醫書が引用した醫方の性格を明らかにする。

『弘明集』『廣弘明集』に見られる道教批判理論の体系化について

東京大学大学院 李 龢 書

中国の南北朝から隋代唐初にわたる数百年間は、道佛両教にとつて激動の時期であつた。その時期には道教と佛教の間で教義の優劣や佛法王法などの諸問題をめぐつて激しい論争が行われていた。それと同時に、道教側は佛教側から様々な反発や刺激を受けつつ、自身の教理体系やアイデンティティを徐々に形成していくようになったのも事実である。

しかしながら、正史や道教経典には当時起こつた諸論争に関する直接の記述が極めて少ない。一方で、外来宗教として、佛教側は護法または佛法を宣揚する立場からこれらの論争に関する文章を積極的に集めて編纂し、さらに『大藏経』に収めて後世にも伝えていく。その代表的書物は、梁の僧祐（四四五—五一八）が編纂した『弘明集』十四卷と唐の道宣（五九六—六六七）が編纂した『廣弘明集』三十卷である。それゆえ、『弘明集』と『廣弘明集』は中国中世における道佛交渉について研究する際に最も重要な文献資料と言つても過言ではない。にもかかわらず、『弘明集』と『廣弘明集』は道佛交渉の典拠として広く扱われているが、この両書それぞれ自体を中心にして全面的に分析する論著はまだ少ない。

本発表は中国中世における道佛交渉、特に『弘明集』と『廣弘明集』を通して佛教側の道教批判の論理に焦点を当てる道教思想史研究の一つの準備作業である。資料としては主に『弘明集』『廣弘明集』を用いるが、また『集古今佛道論衡』のようなそれらに収録されていないテキストも併せて用い、さらに必要に応じて道教側の經典である隋代の『玄門大義』や唐初の『道教義枢』などをも利用する。

本発表では最初に『弘明集』『廣弘明集』を主な資料として、そこに見られる道教批判をめぐる諸問題、例えば早期の沙門不敬王者論から隋唐時代の佛性道性までの問題を時代順に整理する。さらに、これらの問題の推移に反映される当時の社会的・思想的意義を検討したい。次に、その上で南北朝時代から隋唐初期にかけて佛教の道教批判に対する論理が徐々に体系化されてきた現象を歴史的視点から考察し、また、それに対する道教側の反応にも少し触れる。一方、宋元時代に至って書かれた佛教の護法的色彩が濃厚なテキスト、例えば宋代の張商英「護教論」や劉謐「三教平心論」及び元代の初期祥邁「弁偽録」などにも、中世に成立した『弘明集』『廣弘明集』で用いられている道教批判の体系を自身の道教批判の材料にする事例がしばしば見られる。よって、本発表の最後に『弘明集』『廣弘明集』に見られる道教批判の体系が後世の道佛論争にもたらした影響にも言及してみたい。

それによって、中国中世における道佛論争の様態、佛教側による道教批判の体系の形成過程及び後世の佛教側による道教に関する批判論理体系の継承という三つの課題を考察してみたい。

台湾シャーマニズムからみる靈魂世界

西南学院大学非常勤講師 王貞月

本報告は今日の台湾シャーマニズムを通して、人々が考えている靈魂世界とはなにか、如何なる種類の靈魂があるか、それぞれの靈魂の活動空間はどのような形であるか、靈魂における時間概念とはなにか、などの問題を提起しながら、台湾シャーマニズムに内包している靈魂世界を整理することを試みる。研究方法としては、アンケートの調査結果で得た社会的な傾向およびフィールドワークで得た個別の考え方、の二つの調査結果に基づいて分析する。

台湾シャーマニズムの中心人物は、主にタンキー（童乩または乩童）およびアンイイ（厝姨または紅姨）であり、共に靈と人間との交流を仲介する靈媒である。前者は神靈の「よりしろ」であり、後者は死靈の「ほとけおろし」である。そして、一部の台湾民衆はタンキーを通して神靈に様々な問題の解決策を求め、特に「病氣」に関連するものは最も多いのである。その根拠は「人間は肉体と靈魂からなるものである」という考え方にある。要するに、肉体の不調が長期間改善されなければ、靈魂も不調になり、互いに影響しあうため、肉体と靈魂の両方を同時に治療する必要があると思われる。すなわち、神靈や死靈のほかには、さらに生きる人間の肉体と共に生きる靈魂を含み、多種多様な靈によって靈魂世界を構成していると台湾シャーマニズムから見られる。

これらの靈はたとえ神界・鬼界・人界に属しながら、各空間世界を往来している。憑依形態が比較的顕著な台湾シャーマニズムは、神靈が積極的に神界から人界へ関与することや人界でさまよう死靈が行くべき鬼界などを示している。そして、神靈や祖先靈などが永遠に人々や子孫に崇拜または供養などを受けていることからわかるように、肉体を所有していない靈にとっては、活動す

る空間があるにしても、時間という概念がないと思われる。一方、人の靈魂は時間に制限されている肉体と共に人間界で暮らしているため、時間と無関係ではなく、属している肉体の生と死という過程に従って、前世・現世・来世という連続している時間とともない、無限かつ永遠に存在すると思われる。

つまり、台湾シャーマニズムからみる靈魂世界では、多種多様な靈魂が存在しているとされている。それぞれの靈魂は異なる空間世界を中心に活動するが、必要であれば往来することもできる。また、神靈も祖先靈も、まして人間の靈魂も肉体の生滅を超えて、永遠に存続している、すなわち「輪廻転生」や「靈魂不滅」と考えられている。このような靈魂世界を内包している台湾シャーマニズムは、道教と密接に関連している上、道教の影響を受け、それを基にした宗教活動といっても過言ではない。そして、今日の台湾の人々の大半は、自分が無宗教と考えているが、自分の都合によってシャーマニズム的な活動を行うことがしばしば見受けられ、結果として道教の考え方を受け入れていると思われる。

〈特別講演概要〉

近年の中国における経済発展には目覚ましいものがあります。これによって起こる生活や意識の変化も著しく、若年と老年、都市部と辺境内陸部とでは、価値観や伝統文化に対する愛着も甚だしく異なるように仄聞しています。

こういった変化や格差は、宗教とも無関係ではありません。貧困や不自由が解消されると、要望や行動形態も変化し、宗教に求める精神的な支えや救い、そして、示してほしい生き方への助言内容も変化してきます。

今回、歴史記述や宗教組織の構造からでは見えないような、宗教の現状についてお教えいただくべく、中国から三人の専門家をお招きしました。

最初にご登場いただく尹志華氏は、中国道教協会の国際部副主任の要職にある研究者です。国際関係や中国北方という地域性、組織の中枢部にある、などという視点から道教の現状をお話しいたできます。特に国内的には全真派の宗教活動に的を絞っていたきます。

続く上海からのお二人は、上海道教協会のトップの要職にあり、共に現役で宗教活動にあたる正一派道士です。会長の吉宏忠氏からは、江南という活動地域に見られる宗教特性と、この地域に多い正一派の組織内容についてお話しいただき、姚樹良氏には、正一派道士の具体的な活動内容についてお話しいただきます。

限られた時間の中で、道教の全てを語りつくすのは困難です。フロアから出た質問は、翌日の座談会でお答えいただきますので、配布されるカードに何なりとご記入ください。

当代中国道教现状

— 兼谈全真派宫观

中国道教协会国际部 尹 志 华

1978年以来，中国共产党的宗教信仰自由政策全面贯彻落实，道教从“文化大革命”中几近消亡的状态下迅速恢复，并稳步发展。

中国道教协会是全国道教徒（包括全真派和正一派）联合的宗教团体，成立于1957年，至今已召开了八次全国代表大会。中国道教协会的主要任务是引领道教事业健康发展，维护道教界的合法权益，完善教内规章制度，规范和指导重大教务活动，弘扬道教文化，开展学术研究，培养道教人才，参与社会慈善公益事业，进行国际交流等。

中国道教协会会址原设于北京白云观内，现已在白云观西侧建成了自己的办公会所。

中国道教协会设有中国道教学院和中国道教文化研究所，主办《中国道教》杂志。编纂出版了《中华道藏》、《道教大辞典》、《中国道教文化之旅丛书》等。举办了很多学术研讨会以及国际道德经论坛（2007年）、国际道教论坛（2011年）。今年11月25-26日又将在江西龙虎山举办国际道教论坛。

中国道教协会现在对外交流比较频繁，比如去年在英国、法国、比利时举办了一系列道教文化活动；今年出席了日本道教协会成立一周年庆典等。

中国大陆各省级行政区，除天津、西藏、内蒙古、新疆外，其他省级行政区都成立了道教协会。市、县二级行政区内成立的道教协会，有数百个。地方道教院校，有上海道教学院、青城山道教学院、武当山道教学院、河北道教学院和湖南南岳坤道班。

据官方公布，中国现有道教宫观约9000处，道士约4.8万人。信徒人数众多，难以统计。

中国道教从明代起，逐渐形成两个大的道派：正一派与全真派。中国北方的道教，以全真派居多。北京白云观从元代以来，一直是全真派最重要的道观。白云观属于十方丛林，不收徒弟，

别的道观的道士可以前来挂单或常住。目前道士的培训，主要还是师徒传授。一部分道士在道教学院或社会上的大学学习过。道士的学习以道教经典、仪式、修炼功法为主，有的根据兴趣爱好，学习书法、绘画、武术、医学等等。北京白云观开设有道医馆。

北京白云观的经济来源有：作为旅游景点的门票收入；春节庙会的门票收入；道教法事活动的收入；信徒的捐献等。

北京白云观和市民生活的接点：春节庙会，每天有数万人来到观内祈福；平时每月初一、十五，部分市民来观内烧香；道观为市民举办祈福、度亡道场；市民来道医馆看病；道观免费为市民举办道教知识讲座；道观在互联网上开设微博等。

上海道教协会介绍

上海道教协会会长 吉 宏 忠

上海市道教协会是上海道教徒联合的、跨宗派的宗教团体，成立于1985年，最高决策机构是代表大会，至今已召开六届。上海市道教协会下设有办公室、研究室、教务部、经济自养部，主办有《上海道教》杂志和上海道教网站。

经国家宗教局同意，上海道教办有面向华东六省一市以培养正一派道士为主的上海道教学院。上海道教学院与华东师范大学哲学系合作办学，现有本科班50名学员在读，学员在四年的时间里同时修读华师大哲学系宗教学本科专业和上海道教学院教义与文化本科专业。目前正在规划建设占地14亩的新校区，新的道教学院将以全日制本科教育为核心，面向华东地区每年招生，在校生规模300人。每年还将组织住观道士轮训，并成立社会公众部，面向对道教感兴趣的社会人士开展公众教育，目前已举办两期畅玄讲道班。

上海道教现有开放宫观33所，其中一所是全真派坤道院，住观道士200余人，绝大部分从上海道教学院毕业，另有散居道士1000余人，活跃在农村，为当地信徒举行超度和延寿法事。

江南地区的道教以正一派为主，以华东地区为例，除浙江省之外，绝大多数是正一派道士，全真、正一道士人数比例没有完全统计。正一派道士具有神圣和世俗的双重属性，大多有家庭，一般是白天住观，晚上回家，遇有宗教活动需要时晚上也会住观。平时可以吃荤，遇有神诞日或大型法会期间吃素。

上海道教各宫观主要宗教活动是举办神诞法会以及为信众开展斋醮科仪服务，为信众举行各类延生和度亡法事。宫观的经济收入主要由宗教活动经资、信众捐献和香花券构成。

上海道教的信徒大多习惯在农历的初一、十五到庙观里敬香礼神，每年的正月初一，人流更是集中。信徒的年龄正在逐步知识化、年轻化，与老一辈的信徒相比，现在的信徒已不满足于一般意义上的烧香拜神，更多地希望听道长讲经说法，希望从中获得人生的启迪。上海各宫观大多开展讲经活动。以上海城隍庙为例，每两周一次，安排在周六下午，常年开展讲经。每月的初一、十五，提供场所让信众抄写经文，让信众在抄经

过程中有所感悟。

上海道教在开展教务活动的同时，还积极参与社会公益慈善活动。除了在灾害发生时积极捐款外，还成立专门的慈善基金和慈善公益组织，组织信众参与各类慈善公益活动，帮助社会弱势群体。如上海城隍庙，就以道教“齐同慈爱，济世度人”的理念，成立有上海城隍庙陈莲笙慈善基金和上海城隍庙慈爱功德会。

上海道教与国外和港、澳、台道教界有着较好的关系，每年都会有一定的互访。上海道教音乐是国家级非物质文化遗产，上海城隍庙道乐团是上海道教音乐的一张名片，灌制有《迎仙客》系列 CD，其中的《迎仙客》一，还被英国 ARC 唱片公司引进版权全球发行，乐团曾经多次应邀赴欧洲、日本、新加坡、香港演出。

当代上海道教宫观、道士现状

上海道教协会副会长 姚 树 良

自上世纪 80 年代中国改革、开放以来，上海道教恢复开放了钦赐仰殿、白云观、上海城隍庙、三元宫等 33 座道观，其中全真道观一所，最近还有一所正在筹建之中。上海现有常住道士 200 余人（其中全真道士十几位），还有大量散居道士。教徒难以统计，约 20 万左右。

道教有全真、正一两大派，在信仰、经典、教义等方面没区别，在规戒、生活上有所区别，全真道士要求住观、独身、素食、道装蓄发；而正一道士相对比较宽松、可以吃荤和成家。相对而言全真派道士比较注重个人修持而正一派则比较重视符籙、科仪。上海道教以正一派道士居多，基本不会独自云游挂单，多为集体外出参访；外地来沪挂单的全真道士一般提供短期挂单。上海道教除遵守传统清规戒律外，上海道教也有《上海道教清规榜》，全市道观统一张榜并一体遵行。

上海正一道士的培训和师承，既有传统又有创新，想要入道的道童，首先经考试合格进上海道教学院全日制学习三至五年，获大学本科或专科文凭，双向选择进入宫观，然后按传统拜师，由师傅传道授业。道教协会也会不定期举办各类继续教育培训班，宫观也会鼓励支持年青道士去社会上参加必要学习培训。上海正一派道士既有神圣也有世俗的一面，他们早上到值，傍晚离值回家，过起世俗生活。正一派道士在宫观活动的内容一般为教徒举行祈福、超度斋醮科仪为主，另外要值殿劳作、个人修持（练太极、静坐、练统琴棋书画、研读经典等）、还要参与宫观其它日常事务。

宫观每年都会有一些比较固定的道教节日和活动，相对来说在中国农历腊月 and 春节宫观都比较忙，有烧头香、接财神、拜太岁等活动。此外，还有道教主要神明圣诞，清明、冬至超度法会，道观还会组织众信集体宗教活动。

道教是一个追求祛病延生、长生久世的宗教，在长期发展中创立了许多道术、功法，上海道教宫观道士一般道术多用于科仪、消灾上，也有些精于内丹、外丹功法、道术、懂得身心疏导者，会利用教太极、静坐、辟谷、导引、食养、运动锻炼等

开展传法弘道，有些宫观专门开辟养生园为教徒服务。宫观道士也以不同形式对不信教的社会民众开展公益慈善救济，如资教助学、帮困敬老、赈灾救济、环境保护等公益慈善活动。

对于生老病死，随着时代变迁有所变化。上海正一派道士还在沿用的，对于生主要会替人排八字、起名字，有些会把小孩过寄于某位神或某位道士，以求护佑健康、平安。对于老病要求家人、弟子心抱忧戚、不出远门、常侍左右，悉心照料。对于死要求临死之际香汤沐浴，穿戴整齐；生前遗物可用修营功德，也可用作殡葬；授过籙的死后都会随身籙牒，对应符合，回属仙职。自初七、二七、三七至百日、周年，随心功德。

以上是当代上海正一派宫观、道士的基本情况，不当之处，望指正。

第二日（十一月九日 日曜日）

午前の部（十一時半～十二時半）

資料の展示、新刊・古書のカタログ販売

午後の部（一時半～四時）

特別プログラム

「道士から聞く現代の道教 ―その素顔と心―」

共催 京都大学人文科学研究所・術数学研究会

〈特別プログラム概要〉

道教には様々な側面があります。その側面のうち日本では、道教に直接関わる協会職員や現役道士たちについての生きた情報がもつとも欠けています。

今回は、中国からお招きした協会職員と道士の方々に、それぞれの生い立ちの中で道教とどのように関わるようになったのか、フリートークの形で道教の実態を語っていただきます。前日の講演会で出ていた質問はもちろん、フロアからの新たな質問も受け付けながら進めて参ります。

前座講演として、中尾徳仁氏からは天理大学天理参考館が所蔵する宗教民具についてご紹介をいただきます。民具は日々の生活の中で消耗されていく運命にある芸術品です。そういった残存しにくい民具資料の所蔵内容と、特に吉祥版画である年画についてお話しいただきます。続く奈良行博氏には三十年にも及ぶ中国訪問の体験から、道教の実地調査をどのように進めてきたか、それで何が見えたかを語っていただきます。

日本道教学会が術数研究会と共催する今回の座談会は、市民感覚で道教を正しく理解する為の入門的講座でもあります。

開会式 挨拶

術数研究会代表 武田 時昌
道教学会会長 大形 徹

資料紹介

天理参考館が所蔵する中国の宗教民具 ―年画を中心に―

天理大学天理参考館 学芸員 中尾 徳仁

プロフィール

訪中歴三十年、道教踏査の日々を語る

大阪芸術大学短期大学部准教授 奈良 行博

フリートーク

生い立ちから語り、道教の疑問に答える

総合司会 専修大学教授 土屋 昌明

中国道教協会 国際部 尹 志 華

上海道教協会 会長 吉 宏 忠

上海道教協会 副会長 姚 樹 良

ご宿泊の案内中止につきまして

会場の大阪芸術大学スカイキャンパスは「あべのハルカス」24Fにあります。この近辺には、安価なビジネス・ホテルのチェーン店がなく、ご案内を中止いたしました。

最寄り駅「天王寺」は、JR大阪環状線、地下鉄「御堂筋」線ですと、30分以内で到着できる便利な位置にあります。地下鉄「御堂筋」沿線上の本町（ほんまち）、心斎橋（しんさいばし）、難波（なんば）、あるいは新大阪などでネット検索していただくことをお勧めします。

なお、東横イン「あべの天王寺&ホスピタルINN市大病院前」店が10月29日(水)の開店となり、ただ今キャンペーン中で割引をしています。お早めにお問い合わせいただくと安価にご予約が取れるかもしれません。

連絡先は

東横INNあべの天王寺&ホスピタルINN市大病院前
〒557-0001 大阪府大阪市西成区山王1-1-7
TEL：06-7659-1045 FAX：06-7659-1046

明末清初天主教資料新編 全3冊

周岩編校 国家図書館出版社 B5/2182頁/精装/繁体字 ■64,800円(税込)
ISBN9787-5013-4930-2/2013.11(繁体字縦組)

●明の万暦年間から清の雍正年間までの天主教史の重要文献40種を収録。上冊は編者が生前に点校を終え、前言を書き終えたもので、『天主実義』など26篇。中冊は点校は完了しているが前言が未完成であり、生前に書かれた一部内容や搜集した資料を基に文章化したもので、『楊洪園先生超性事迹』など7篇。下冊は2001年に出版した『明末清初天主教資料叢編』を影印収録。(10278934)

中華大典・宗教典・儒教分典 全6冊

中華大典編纂委員会編/任繼愈主編 河北人民出版社

B5/5998頁/精装/繁体字 ■96,552円(税込) ISBN9787-202-05985-2/2012.10

●積義称名総部は宗教・儒教・孔教・聖教・聖經称名に関する材料を収集し、古人の觀念中の儒教という名称を明示/神祇総部は天神・地神・人神部を設け、儒教の神祇系統を明示/教職と設施総部は教職教爵・設施部を設け、儒教の組織系統と宗教施設状況を明示/礼楽総部は礼部と楽部を設け、儒教の礼儀制度を明示/教義総部は天人の際、精神と鬼神、徳行、修養、占驗、報応、異端の7部を設け、儒教教義を明示/典籍総部は經・史・子の3部を設け、関連書籍を紹介/人物総部は先秦・兩漢から明代・清代まで7部に分け、重要儒者を紹介。(10275759)



中国書籍の

亞東書店

書籍/雑誌/新聞/DVD等

ホームページ <http://www.ato-shoten.co.jp/>

業務センター:Tel(03)3835-7091 Fax(03)3835-7098

〒110-0015 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル1F

東京店舗:Tel(03)3291-9731/名古屋支店:Tel(052)836-2880

祝 第65回日本道教学会開催

易学哲学史(全四巻)

朱伯崑著 伊東倫厚監訳 近藤浩之編

B5判並製・二〇七〇頁 四三、二〇〇円

易伝成立から清末までの易学の発展と、その哲学との関係について総合的に論じた朱伯崑著『易学哲学史』の完訳。類書に見られない緻密かつ全面的な議論が展開され、易学研究に必備の重要な著作である。

戦国思想史研究

吉永慎二郎著

A5判上製箱入・九七〇頁 二一、六〇〇円

『墨子』や『左伝』等の戦国期文献の原典批判・資料批判を踏まえつつ、『孟子』の新たな思想的解明を試み、戦国前・中期思想史を儒家と墨子の思想的交渉という新たな視点のもとに解明する。

楚辞とその注釈者たち

小南一郎著

A5判上製・四八二頁 七、五六〇円

楚辞文芸の形成過程を屈原伝説から切り離し、楚人が激動の時代に真摯に対応し、苦悩しつつも前進しようとする探究の中にあつける。

『淮南子』と諸子百家思想

向井哲夫著

A5判上製箱入・四六六頁 七、五六〇円

『淮南子』各篇は一つの中心的立場で書かれており、大半は諸子百家のいずれかであるという観点より、『淮南子』と諸子百家思想との関係について検討する。

唐代思想史論集

島一 著

中國藝文研究会発行 朋友書店発売

A5判上製箱入・七四二頁 一〇、八〇〇円

中国唐代思想研究において優れた業績を挙げた著者の遺稿論文集。全二十三篇を三章に分ち収録する。貞観年間の礼の修定と『礼記正義』、中唐期における天人論とその背景、王真の『道德経論兵要義述』とその周辺など。

中国思想認識における幾つかの問題

孫路易著

A5判上製箱入・二〇二頁 六、四八〇円

第一章 成玄英の「道」/第二章 王陽明の「良知」/第三章 嚴復思想における用語の問題/第四章 康有為の「神」/第五章 章炳麟の「真如」/第六章 譚嗣同の「以太」。

中國の禮制と禮学

小南一郎編

B5判上製箱入・三四四頁 一〇、八〇〇円

京都大学人文科学所共同研究班「中國の禮制と禮学」の成果報告論文集。中国における礼の実態および中国の伝統社会をその基礎から理解するための手がかりを提供する。

老子想爾注索引

麥谷邦夫編

B5判並製・二八二頁 三、二四〇円

老子道德経の注釈として注目すべき内容をもつ敦煌文書スライン第六八二五号『老子想爾注』の一字索引。

株式
会社

朋友書店

〒606-8311 京都市左京区吉田神楽岡町8番地
TEL (075) 761-1285 フラグ 1176 0120-761285
FAX (075) 761-8150 振替 01010-5-41041
E-mail : hoyu@hoyubook.co.jp

中国関係書籍を お売りください

中国書・日本書を問わず買取いたします。

中国関係以外でも何でもご相談ください。

〒651-1331 神戸市北区有野町唐櫃 1635 番

プロムナード六甲 101 号 078-907-6652

中国書籍 カラト書房

<http://www.karatoshobo.com/>

nosaka@karatoshobo.com

387136道法海涵 第1輯 全20冊

李豊楸 新文豊出版股份有限公司

2014年04月出版 9789571721910 / 408,672円

《正統道蔵》などの道教資料集は、古来、刊行された道教典籍を網羅的に収録しているが、夥しい数の道教写本は収録対象外である。本《道法海涵》は、主に清から民国にかけての地方の道壇・法壇が用いた道教経懺・文檢・科儀・秘咒・符本の写本を収録する。道教写本の分類法はないので本書では、以下のとおり12分類に分けて収録する。①文檢行移、②受煉更生、③真經宝懺、④啓請送駕、⑤朝元行科、⑥朝真謁帝、⑦開度灯儀、⑧雲篆符図、⑨解結解厄、⑩諸神醮科、⑪摂亡拯済、⑫讚祝灯儀。

161436 陝西薬王山碑刻藝術總集 全8巻

陝西省考古研究院 銅川市薬王山管理局 編 上海辞書出版社

2013年12月出版 9787532638840 / 259,200円

本書は、首都博物館研究員・張燕の30年にわたる研究の成果であり、陝西歴代薬王山仏道教碑刻300余(全国の同類碑刻の75%を占め、殆ど初公表)を収録している。測量図・全体拓本・部分拓本・全体写真・部分写真・録文で構成。早期仏道教の歴史・雕刻・書法・造型芸術の研究にとって、貴重な資料であると言える。

- | | |
|------------|--------------------|
| 第一巻《北魏造像碑》 | 第五巻《唐代造像碑及历代雕塑、壁画》 |
| 第二巻《西魏造像碑》 | 第六巻《历代石碑》(上下册) |
| 第三巻《北周造像碑》 | 第七巻附巻《临潼、渭南地区造像碑》 |
| 第四巻《隋代造像碑》 | |

371833 中国道教美術史 第1巻

李崧 湖南美術出版社

2012年11月出版 9787535643155 / 38,880円

主に道教の教義や神仙思想を広めることを主旨とした道教美術は、中国美術の発展に大きく寄与し、晋代の顧愷之、唐代の呉道子、宋代の武宗元、元代の黄公望、明代の呉偉、清代の金農及び近代の張大千などの大師が創作した道教題材の絵画は、中国美術史上において重要な地位を占めている。《中国道教美術史》は、大量のカラー写真や図版を配し、実地調査と豊富な文献調査を組み合わせ、前人の研究成果を踏まえ、2400年余りにわたる中国道教美術史の歴史を浮彫りにする。全3巻予定

- | | |
|-----|-------------------------------|
| 第1巻 | 先秦—隋 前道教美術 / 借鑑与互动南北朝至隋代的道教石刻 |
| 第2巻 | 唐—宋 系統的建立: 五代两宋时期的道教美術 |
| 第3巻 | 元—清 再创輝煌: 元代的道教美術 / 明清时期的道教美術 |

*価格は税込定価です。納品方法等ご相談に応じます。

東方書店

業務センター tokyo@toho-shoten.co.jp
Tel.03-3937-0300(代) Fax 03-3937-0955

関西支社 kansai@toho-shoten.co.jp
Tel.06-6337-4760(代) Fax06-6337-4762

◆東方書店ホームページ<中国・本の情報館>◆

東方書店 検索

輸入中国書籍、日本で発行された中国関連書籍の検索、注文ができます。

国宝・重要文化財シリーズ第三弾！

半井家本 医心方 全八卷

本巻六卷 半井家本全三十巻一冊・付属文書
別巻二巻 仁和寺本影写本／多紀家旧蔵本／
日本医学叢書所収活字本

特色

- ▼現存するわが国最古の医書。
- ▼失われて見ることのできない文献を多数引用。
- ▼安政版の不備を補う待望の写真版—安政版との対比をしやすい編集。
- ▼続刊に索引・解題・資料を収録。
- ▼頒布方法
 - ・全巻お申し込みの方にのみお領ちいたします。

申込方法

- ・書店等では取り扱っておりませんので、直接下記宛お申し込み下さい。
- ・限定版(番号入り)につき数に限りがあります。

造本体裁

- ・B5判 上製本 函入 各巻四四〇〜五〇〇頁
- ・印刷 大塚巧藝社 オフセット印刷(一部二色刷口絵カラー刷)

定価

二五〇,〇〇〇円(90年11月刊行)
分割支払方法あり 月々八,五〇〇円より

出版記念一千年進撰

★続刊

医心方の研究 全一卷

執筆者

- 山本 信吉(文化庁文化財調査)
- 築島 裕(東京大学名誉教授・中央大学教授)
- 宮下 三郎(関西大学教授)
- 坂出 祥一(関西大学教授)
- 杉立 義一(日本医史学会理事)
- 東野 治之(大阪大学助教授)
- 小曾戸 洋(北里研東洋医学総合研究所室長)
- 篠原 幸市(日本鍼灸研究会代表)

●91年夏刊行 非売品(半井家本申込者に贈呈)
内容(予定) 半井家本医心方解題／半井家本医心方の国語学的考察／半井家医心方調査報告と評価／医心方における医療と道教／医心方の伝写／金剛寺本医心方／引用文献名索引／医心方の鍼灸ほか

★国宝・重要文化財シリーズ既刊本

東洋医学善本叢書 第一期 全八巻

- 黄帝内经太素(仁和寺・国宝) 諸稿源候論(宋版)
- 黄帝内经明堂(仁和寺・国宝) 脉経(影宋版)／鍼灸甲乙経(古鈔本)
- 外台秘要方(宋版・重文) 解題・研究・索引

東洋医学善本叢書 第二期 全七巻

- 備急千金要方(宋版・重文) 新羅孫真人千金方(宋版)
- 真本千金方(古鈔本) 千金翼方(元版)

530 大阪市北区天神橋3-1-6 1126
〒06-0051 613-1314 (代)

オリエント出版社

(各内容見本進呈)

雲笈七籤(全5冊)(道教典籍選刊)

[宋]張君房 編 李永晟 点校 中華書局 特價 7,000 円

脊振山信仰の源流 西日本地域を中心として

吉田扶希子 著 B5/328 頁 9,500 円

台湾シャーマニズムの民俗医療メカニズム

王貞月 著 A5/287 頁 6,600 円

論語における孔子の教育思想と楽

荒木雪葉 著 A5/303 頁 4,200 円

中国中世の民衆文化 呪術・規範・反乱

相田洋 著 A5/373 頁 7,000 円

こころとからだ 中国古代における身体思想

石田秀実 著 A5/479 頁 8,000 円

老子新考 つくられた老子

大野透 著 A5/514 頁 8,000 円

『莊子』内篇の研究

佐藤明 著 A5/371 頁 10,874 円

【価格税別】

中国書店

〒812-0035 福岡市博多区中呉服町 5-23

TEL 092-271-3767 FAX 092-272-2946

<http://www.cbshop.net/> E-mail: book@cbshop.net

図書出版
京 都

阿咩社

現代中国の道教 庶民に生きる 信心文化

経済発展著しい中国における道教の宗教地を現地調査に基づき紹介。
観光地としての魅力も浮き彫りにしている。

奈良行博著 3000 円＋税

東アジア経済史の諸問題

「唐宋変革」以後の中国・日中貿易の動向など東アジアの絶えざる
人びとの経済的営みを分野別に追う。

松田孝一編 2700 円＋税

私の中国史

自然環境が大きく異なる広大な大地に、さまざまな民族、多数の人口を
包含して営まれてきた 4000 年に及ぶ歴史を 40 年近くの講義の経験の中から、
わかりやすくまとめた書。

小玉新次郎著 2300 円＋税

移民と宗族 香港とロンドンの文氏一族

宗族とは、中国の父系親族組織のこと。香港の一村落に住み込み、海外への
出稼ぎ移民とそれを支えた母村の宗族の実際を描き、
華僑・華人のたくましさの背景と中国人のアイデンティティを浮き彫りにする。

ジェームズ・L・ワトソン著

瀬川昌久訳 2718 円＋税

残部僅少

天山のかなた ユーラシア人と日本人

シルクロードの舞台として、東西文化を融合したウイグル文明に魅せられた
著者が、日本の中央アジア研究とその歩みをはじめ辺境論などを平易に語り、
綴った、広大な中央ユーラシア史論。入門書としても最適。

山田信夫著 3107 円＋税

残部僅少

移情閣遺聞 孫文と呉錦堂

複雑にからみ合う日中近代史の糸で結ばれた中国の革命家・孫文と神戸の華僑・
呉錦堂の関係を解き明かす。日中近代史に関心をもつ人たちへおすすめの書。

中村哲夫著 1806 円＋税

残部僅少

〒602-0017 京都市上京区衣棚通上御霊前下ル上木ノ下町73-9

Tel 075(414)8951 Fax 075(414)8952

info@aunsha.co.jp <http://aunsha.co.jp>

◎『太平廣記』を凌駕する、宋代社会文化史——貴重資料の現代語訳なる！

全巻予約受付中

『夷堅志』訳注 全八巻

齋藤 茂ほか訳注 第一回配本 甲志上
▼B5判／336頁／8000円

『夷堅志』は、宋代の社会状況を知る貴重な資料として『太平廣記』に匹敵する価値を持ち、東アジアの民間信仰・民間説話を研究する上で、多くの情報を提供するものである。特に、各話の末尾に話の出処が明記されている点は貴重である。第一巻「甲志上」には、伝説的道士、呂洞賓について記した「石氏の娘」ほか全一六一話を収録。以下、「甲志下」から「丁志下」までを全八巻で刊行。各巻末に人名・地名索引を付す。

◎先秦から民国期まで、中国における学問の歴史、知の伝承・伝播を通観する

学問のかたち——もう一つの中国思想史

中国古代の学と校（小南一郎）／漢代経学の相貌——宇宙論的「知」の形成（辛 賢）

六朝時代における家学とその周辺（吉川忠夫）／梁代の仏教——学術としての二三の特徴（船山徹）

宋代における経学と政治——王安石と朱熹の異同（小島毅）

中国近世の書院と宋明理学——「講学」という学問のかたち（鶴成久章）

モンゴル王族と漢児キタイの技術主義集団（宮 紀子）

人法兼任の微意——明代中後期の科挙および督学制度と思想史（三浦秀一）

清代学術と幕府——編纂と代作の状況を中心として（水上雅晴）

「仁義礼智」を捨てよう——中央研究院歴史語言研究所の出現（平田昌司）

小南一郎編 ▼A5判／360頁／8000円

汲古書院

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-5-4(税別)
TEL03-3265-9764 kyuko@fancy.ocn.ne.jp

あべのハルカス地下1階入口(上図・中図)と
17階の乗換フロア(下図)



あべのハルカス地下1階の入口。図左が近鉄百貨店、天井に大きな時計。
図右のガラス張りがハルカスのシャトルエレベータ乗り場入口。



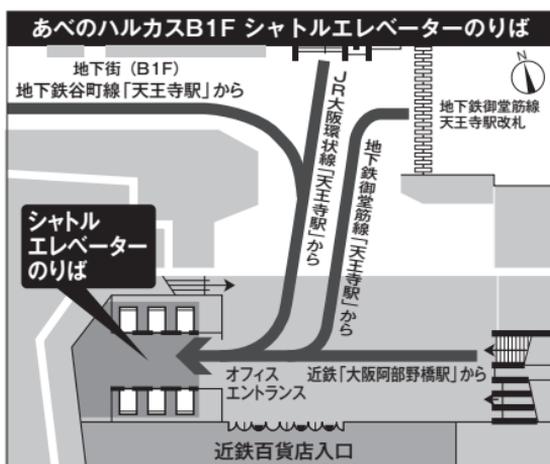
シャトルエレベータ乗り場入口。図左のエレベータで17階へ。
(図右のエレベータは16階止まり)



あべのハルカス17階、オフィスエレベータへの乗換フロア。
図右は「近畿日本ツーリスト」の営業ブース。
図左から24階、大阪芸大スカイキャンパスへ

大阪芸術大学 スカイキャンパス

〒545-6090 大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43 あべのハルカス24F
TEL.06-6654-5557 FAX.06-6654-5558



大阪芸術大学スカイキャンパスへは、**地下1階**より**シャトルエレベーター**をご利用いただき、**17階**で**オフィスエレベーター**に乗り換え、**24階**でお降りください。

※裏面の写真をご参照下さい。

- 近鉄「大阪阿部野橋」駅 西改札
- JR「天王寺」駅 中央改札
- 地下鉄御堂筋線「天王寺」駅 西改札
- 地下鉄谷町線「天王寺」駅 南西/南東改札
- 阪堺電軌上町線「天王寺駅前」駅よりすぐ